

WIFM (林業向け自主改善活動)

マニュアル

2019年版

WIFM

Work Improvement on Forest Management

Manual

2019年

愛媛大学教授 山田 容三
神奈川大学教授 久宗 周二

目次

1. 林業の災害
2. 林業向け自主改善活動WIFMとは
3. 自主改善活動の基本的な考え方
4. 具体的な進め方
 - ステップ 1 よい改善事例の選択
 - ステップ 2 チェックリストによる点検
 - ステップ 3 グループミーティング・改善の実施
5. WIFM実施にあたってのポイント

1. 安全を守るために

林業の事故は社会に対して大きな影響を与えます。「林業」の労働災害を産業別職業上休業4日以上の災害発生率（平成29年値）は千人当たり32.9人であり、「全産業」の2.2人の15倍となっており、他産業に比べて著しく高い状況が続いている。これらの労働災害の発生原因を見てみると、本来遵守すべき安全確保のための基本的な作業手順を励行していないことに起因する労働災害が多発しており、依然として同種作業、類似災害の発生を繰り返すなどの傾向も顕著である。林業における年齢別死傷者数（平成29年度）は、50歳以上が672人で51%を占めており、作業種別の死亡災害では、伐木作業中の災害が28人で70%を占めている。

そこで、林業向け自主改善活動（WIFM）を提案いたします。

2. 林業向け自主改善活動 WIFMとは

林業向け自主改善活動WIFMはILO（国際労働機関）が作成したWISE（中小企業自主改善活動）を船内向けに簡便にしたWIB（Work Improvement on Board）を、林業に応用したものです。WIFMは、全員が簡単にリスクチェック、良好な事例を参考にして、低コストで、無理せずに、改善活動ができます。

3. 自主改善活動の基本的な考え方

自主改善活動の基本的な考え方は、自分の職場は自分自身が一番分かっていると考え、被害を受ける前に全員で予防をします。皆さん一人一人自らが安全対策を作り、労働災害の未然防止を図ることで、本稿で紹介しているチェックリストなどのツールや、活動事例は皆さんの活動をお手伝いするものです。林業の災害防止を図るためには、車内を改善することが必要です。現場は、大きさ、状況が大きく異なります。全員が自主的に改善することが必要です。

WIFM林業向け自主改善活動の特徴

- ・ 良い改善事例をみんなで選択することで、共通の認識ができます。
- ・ チェックリストを使って機械、道具、環境などの状況に合わせて、全員で自らの改善案を提案できます。
- ・ 短時間でできます（点検・話し合いは30分～1時間30分程度）
- ・ 全員でリスクの点検ができます。
- ・ 職歴に関係なく、若手も参加することにより安全意識も高まります。

4. 具体的な進め方

ステップ1 よい改善事例の選択

参加人数分の赤と黄色のポストイットを用意してください。参加者それぞれで、1番良いと思う事例に赤いポストイット、2番目に良いと思う事例に黄色いポストイットを写真にはりつけてください。一番投票が多かったものが、みんなが必要と思う事例です。参考にしながら、改善案を考えてみましょう。



写真1 ステップ1：良い改善事例の選択

準備1 同封の写真を壁に貼る、あるいは机に置いてください。

準備2 参加者にピンクと黄色のポストイットを1枚ずつ配布してください。

実施 参加者一人一人が、ピンクのポストイット（一番良い）と黄色のポストイット（次に良い）を写真に貼ってください。

最後に、集計をして上位2位を選び出し、どのような改善に人気があるのかを示してください。上位2位は、ピンクの数が最も多い事例、次に黄色の数が最も多い事例になります。

ステップ2 チェックリストによる点検

同封のチェックリストのチェック項目に目を通して、項目ごとに進めてください。

チェックリストのチェック項目に目を通して「すでに実施」、「改善が必要」、「優先的に改善」にチェックしてください。改善の必要がないと思われる項目は回答しない（無回答）でください。点検する際のポイントですが、まずは自分の職場をイメージしてみてください。

全員のチェックリストを回収し、各項目ごとに「優先的に改善」にチェックした個数を集計してください。1～35項目のうち「優先的に改善」の回答数が多いもの（優先順位が高いもの）から順に3つ選んでください。

全員の改善意見として、チェックリストの最後のページに改善すべき3項目を書き込んでください。

ステップ3 グループミーティング・改善の実施

ステップ1の投票で得られた良好事例2事例とステップ2のチェックリストの結果の「優先的に改善」の上位3項目を発表して、改善すべき事例を全員で話し合いをして3つに絞ります。まずは、その三点について実際に改善していきます。

全員で話し合った改善案をまとめると、同封の「改善活動進め方シート」に記入していきます。次のステップとして、このシートに改善すべき内容（Plan）を記入して、会社と協働で実行（Do）→確認（Check）→対応（Action）を進めていきます。



写真2 ステップ3：全員の話し合いで改善すべき事例を3つ選ぶ

改善が終われば、「BEFORE（改善前）」「AFTER（改善後）」の写真を取り「改善活動すすめ方シート」を記入して、チェックリストとともに保管をしましょう。これにより、改善活動の記録とともに、改善写真を社内に飾れば改善意識の向上を目指します。

初めに挙げた3つの改善が終わったら、次の3つの改善項目を選んで継続的に実施します。さらに、全員でチェックリストによる点検を定期的（年数回）に実施して、改善活動を継続的に行います。大規模な修繕は、会社と話し合っ
て必要な資材や修繕を手配してください。

5. WIFM実施にあたってのポイント

- ① WIFMは、労働環境を改善する簡易なリスクアセスメントのようですが、簡易版リスクアセスメントよりも、はるかに簡単で効果のある労働安全衛生対策です。
- ② 人数の多い事業体では、職種ごとに集まって行ってください。
- ③ ステップ1の良好事例とステップ2のチェックリストは関連しています。
- ④ ステップ1～3を全て行うと1時間から1時間半かかります。
- ⑤ ステップごとに日を変えて順番に30分ほどで行うこともできます。

ご不明なところがありましたら、下記の連絡先にお問合せください。

連絡先

愛媛大学大学院農学研究科

教授 山田 容三

Tel & Fax : 089-946-9665

E-mail : yamada.yozo.fi@ehime-u.ac.jp

〒790-8566 松山市樽味3丁目5-7

よろしく願いいたします。